

HAMADA 教育魅力化コンソーシアム 令和 5 年度第 1 回役員会 議事録

- 日 時 令和 5 年 5 月 31 日（水）10：00～11：30
- 場 所 浜田市立中央図書館 2 階多目的ホール
- 出 欠 出席役員 13 名（代理出席 1 名を含む）
欠席役員 3 名
- 結 果 会長、副会長及び監事の選任について・・・承認
- ・会 長：岡田泰宏(浜田市教育委員会 教育長)
 - ・副会長：志波英樹(島根県立浜田高等学校 校長)
 - ・監 事：田村洋二(浜田商工会議所 専務理事)
 - ・監 事：山川俊二(石中央商工会 事務局長)
- 令和 4 年度事業報告、決算報告、監査報告・・・承認
- 令和 5 年度事業計画（案）について・・・承認
- 令和 5 年度事業予算（案）について・・・承認
- その他
- HAMADA 教育魅力化コンソーシアムと各学校の学校運営協議会との関係性について事務局から説明し、共通認識とした。

主な意見等

[会長あいさつ]

会長に改めて就任させていただきました教育長の岡田です。議事の進行に先立ちまして一言ごあいさつします。

浜田市の教育魅力化コンソーシアムにつきましては、本日お集りの皆様のご協力をいただき、これまで様々な活動を取り組んで来ることができた実感を感じています。例えば、高校と地域の出会いの場、HAMADA 教育魅力化フェスタにおいての高校生の発表の場などを通じて、コンソーシアムの活動が少しずつ見える化をしてきて、認知されつつあるのではないかと考えています。

そのような活動が地元の高校に中学生が進学していく推進力になっているとすれば、それは喜ばしいことと考えています。

一方、各高等学校では今年度から学校運営協議会が設置されました。この学校運営協議と HAMADA 教育魅力化コンソーシアムとの関係性の整理をしておく必要があるのではないかと考えています。今日の意見交換の内容にも計画されているので、事業計画などの審議に合わせまして、忌憚のないご意見を頂戴できたらと思っています。

それでは、委員のみなさまのご協力を頂戴しまして、これから 1 年精一杯務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

[令和 4 年度事業報告、決算報告、監査報告]

事務局より資料に基づき事業報告と会計報告を一括して行ったのち、山川監査から監査報告を受けた。

これに対して、役員からの質問や意見はなかった。

[令和5年度事業計画（案）、事業予算（案）]

事務局より資料に基づき事業計画（案）と事業予算（案）を一括で説明した。

○役員からの意見・質問

■浜田ろう学校校長

質問というより相談となるが、本校では、高校3年生の生徒が地域協働学習で総合型選抜などを目指しながら探究学習を行っている。具体的には、地域から依頼されている手話学習に生徒を派遣することを考えている。

しかし、ろう学校だからと言って全ての生徒が手話を上手にできるというわけではなく、人工内耳で、手話に頼らなくてもいいという生徒もたくさんいる。

こうした中、児童クラブなどで手話学習をして欲しいという依頼があり、そのために自分も勉強したうえで参加したい、という希望も上がっている。

特別支援学校では、地域との連携強化事業というのがあり、県教育委員会からお金が出ているが、予算規模としては大きくはなく、自由度も高くない。

地域協働学習をするにあたって、いくらかの補助や予算的な補助を検討いただきたい。交付金算定のことは理解しているが、相談をさせていただきたい。

（事務局 回答）

ご意見については、予算の中のやりくりの中である程度対応できる部分もある。

共通事業費の額を拡充し、特別支援学校の支援をすることが可能だと考えられるが、各高校にもそのことを理解してもらう必要があるため、この件については、魅力化部会などで協議しながら検討させていただきたい。

（学校教育課長 回答）

補足ですが、養護学校やろう学校に関わる部分だけでなく、基本的に市民に関わる事業でもあると思う。

特に地域からの要望もあり、地域の方も対象の事業となるため、教育委員会だけではなく他の部局からも支援できる部分もあると思う。

一方、養護学校に関しても、今「特別」という言葉がついていますが、同様の支援がいる児童生徒が結構多いので、支援できる部分については庁内で確認をとって個別にご相談させていただきたい。

■浜田ろう学校校長

必ず予算を確保して欲しいということではなく、まずは浜田ろう学校や浜田

養護学校ではこのような事情があることを理解していただきたく発言したもので、ご検討いただきたい。

■はまだっ子共育運営委員会会長

以前から申し上げているが、私は浜田で「子どもの権利条約」を推進すべく取り組んでいる。やはり、若者の社会参加、シチズンシップの育成というところから言うと、細切れでの助成金ではなく、ユース基金に対してふるさと納税や寄付などで、予算執行できる枠組みをこれから5年くらいかけて整備していくことが必要ではないかと思っている。

県立大学生が地域と関わると5万円という制度が市にあるので、高校生にも枠を広げることも必要だと思う。

先日、浦崎先生の講義受け、探究が社会の課題という部分ではなく、「やってみたい」から始まるというところの視点はいいと思う。

(会長 回答)

教育委員会としてもこの会で、ご意見があったことを受け止めました。浜田市では、若者ファンドや様々な基金について進めようとしているため、少しその活用についても可能性を探っていくということで、事務局の預かりにさせていただきます。

(副会長（浜田高等学校）回答)

PBL（課題解決型学習）というところでいくと、地域課題解決がメインになってしまうが、自分の課題感などから発した課題研究というのは、本人の変革、これからの成長に向かう原動力になる部分も非常にあると思う。そうした課題解決に向かったの視点というところも、教育する立場からとしても進めていけないといけないと思った。

■（副会長（浜田高等学校）回答）

市内県立高等学校への進学率向上に向けた取り組みについて、令和7年度から入学者選抜が大きく変わるため、非常に重要なテーマだと思っており、コンソーシアム事業のなかで取り上げていただいたことはありがたい。

総合型選抜では、各学校において40パーセントまで定員を確保できるということになる。これが浜田市、近隣でどのような生徒の動きにつながるのかということはまだ予想もつかないが、令和5年度の段階から浜田市全体として考えていくということがすごく重要なことだと思う。

定時制・通信制を含めた浜田市内の進学率は60%を超えているので低くはないが、全日制高校3校では56%と去年より下がっている。

生徒確保は、基本的に高校が自助努力としてやっていくところだと考えているが、コンソーシアムとして、将来的に市内の生徒がどれくらい確保できるのかという数値目標を考えても良いのではないかと。

情報発信も行っていただいているが、コンソーシアムとしての取組がもう少し中学生に見えて、進学先に市内の高校が選択肢に挙げてもらえるような工夫が必要だと思う。

(会長 回答)

中学生が地元の高校がどういった活動をしているか、ここに住むと将来どんな展望が開けそうか、ということをしっかり理解するということはとても大事なことである。事業計画の中で、進学率の向上をあげている以上は、この活動がきちんと中学校にも届くように、改めてそこを意識して取り組んでいけたらと思う。

■会長

新しく Y. A. C. (地域系部活動) の取組をしようということで、これは事務局にもかなり負担がかかると思うが、ぜひ進めて欲しい。その中で、Y. A. C. にかかる予算はどの程度、確保しているのか。

(事務局回答)

予算書の中で詳細には提示していないが、HAMADA Wi-Wi にかかる予算として 57 万 2 千円を確保している。この内訳は魅力化勉強会が 13 万円、Y. A. C. 対象の研修会等で 15 万、活動費としては、各学校 5 万円ぐらいを確保している。

その他にもコンソーシアム全体で活動する時などのバス借り上げ料なども確保している。

■会長

各高校の取組については、各高校から積み上がって精査されたものだと思う。新しい事業なので、事業規模についてははっきりさせておいたほうがよかったかなと思い質問した。

■小学校校長会会長

Y. A. C. ですが、今年度からスタートということだが、継続した予算をしっかりと確保して長いスパンで経過を見ていく必要がある。

先輩の動きを見ていて、私たちはこれ、というつながりも生まれてくる。探究的な学びをしながら、それに対して高校生が解決策を提案して終わっていたのでは続かないと思う。

それをどう地域の中で少しでも実現するのか。ここは少し大人が関わらなければならぬところだと思っています。形に見えたものがまた次の世代の生徒に引き継がれ、どんどん広がっていくようなイメージで捉えている。

継続的な予算も必要となるだろうし、それに対する大人の本気度、それを大人がどれだけ本気で実現しようとするか、ということも関わってくる。

それを見た中学生なり小学生が、じゃあ私たちは、という魅力化の一つにつながっていくのではないかと。継続しながら好循環の輪を膨らませていただきたい

い。

(事務局回)

現在は、県の交付金を活用していますが、始めたことをしっかり大きくしていくということで、継続性も持ってやっていきたいと思う。また、予算の確保についてもしっかりやっていきたい。

■浜田水産高校校長

今年1月に島根県の教育委員会から、探究フェスタを松江で開催すると連絡があり、コンソーシアム又は学校で生徒の移動費を負担するよう連絡があった。

一方、コンソーシアムとしては、次年度予算を組んだ後でもあり、困っているところだが、探究フェスタの参加費については、本日の予算案に反映されているか。

(事務局回答)

この件については、浜田高校も心配されており、結果として浜田高校の予算のなかで、乗り合わせのバス借上げ料を計上いただいている。

■浜田商業高校校長

Y. A. C. の取組に大変期待をしている。生徒たちは各学校においてそれぞれ部活動に所属しているが、部活をしながら参加できる仕組みだと思っている。

問題は、各学校でこの素晴らしいコンセプトと内容をどれだけ生徒に伝えられるか、共感してもらって、主体性がない子たちにどう腰を上げて一歩前に踏み出させるかということだと思う。その責任は学校にも多分にあると思う。

高校魅力化コーディネーターと調整をしながら、よく考えて進めていかなければならないと感じており、学校も覚悟を決めて支援していきたいと考えている。

こうした中、より多くの生徒に参加してもらうための工夫やお考えがあれば、お聞かせいただきたい。

(浜田高校担当魅力化コーディネーター 回答)

浜田高校では、3年前に有志の生徒が地域の活動をしたいということでY. A. C. の0期生が活動していた。その後、途絶えてはいましたが、コンソーシアムの事業として地域系部活動を立ち上げることになった。現在、浜田高校では4名の生徒が登録している。

既に第1回の集会をして、社会貢献の案を考えており、具体的には、コンタクトレンズの使用済みのパッケージの回収を浜田市でできないか、という案が生徒から上がってきている。

この取組は、校種を超えて実施できるため、Y. A. C. の象徴的な活動として提示していけるような形になるのではないかな、と期待感を持っている。

活動を支援して、なおかつそれが横につながっていくためには大人が支援していくという部分も重要だと思っているので、生徒からの発案でもあり象徴的な取組として生徒を支援していきたい。

また、継続性が非常に重要だと思っているので、1年やって終わりではなく、毎年やっていきたいと考えている。この取組が引き継がれ、これをベースとしながら、より大きな活動につなげていきたい。

■会長

Y. A. C.については、いろいろな思いの委員さんおられると思いますが、方向感としては非常に期待もできるし、課題もあると感じておられると思います。

まず一步踏み出すということをコンソーシアムの事務局から今回提案があったので、今後も引き続き委員の皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいと思う。

私もこの取り組みが将来進展していけば、高校生だけではなく、大学生や中学生を巻き込んだ広がりのある、素晴らしい事業になるような期待感を持っている。一過性のもので終わらないような努力を事務局としても頑張っていただきたい。

[その他（HAMADA 教育魅力化コンソーシアムと各学校の学校運営協議会との関係性の整理）]

事務局より、HAMADA 教育魅力化コンソーシアムと各学校の学校運営協議会との関係性について、資料に基づき説明した。

○役員からの意見・質問

■副会長（浜田高校校長）

コンソーシアムと学校運営協議会という同じようで分かりにくい組織の在り方について、事務局で整理いただいた。本日、午後の浜田高校の第1回学校運営協議会では、このように整理して臨みたい。事務局案での整理で進めていくことが非常に円滑ではないかと思う。

■会長

1校1コンソーシアムという学校であれば、コンソーシアムと学校運営協議会の整理を県教育委員会の考えで移行できると思うが、浜田は複数校で1コンソーシアムなので、整理が必要だと思う。

また、学校運営協議会がそれぞれ設置されたとしてもコンソーシアムを解散せず、学校運営協議会と連携しながら今後もいろんな企画を考えていこうという整理となっている。

一方、浜田市においても共育活動など、コンソーシアムと類似、重複する組織

があるので、このあたりの整理をどうするか、という課題もあることを併せて共有させていただきたい。

[意見交換]

事務局より令和5年3月の市内中学校卒業者の進路状況を説明し、意見交換を行う予定であったが、時間の都合上、事務局からの情報提供となった。

[協議全体を通じての意見・感想]

■島根県立大学教授

Y.A.C.の取り組み素晴らしいと思いながら聞いていた。一過性で終わらせることなく、持続可能な形で進めていくということで、ひとつ提案するが、ビジネスプランコンテストのようにアイデアを出して終わりになってしまうということが多い中、そこから先をどういう形で政策として実現していくのかが問われる。

よって、Y.A.C.の活動の目標として、浜田市に対する政策提言というゴールを設定してどうか。活動してくれる高校生、中学生もモチベーションが上がるのではないか。

浜田市としても、面白い取り上げて、全市的に実現していくような形になれば、生徒たちは、達成感を得ることができる。

生徒の獲得ということで、自治体間での取り合いが厳しくなっている中、Y.A.C.の試みというのは、大きなコンテンツになると思う。ただし、一方で生徒の保護者が注目しているのは教科学習である。

教科学習を本丸として、教科学習もしっかり鍛えますよ、それとこのY.A.C.の試みと相乗効果を狙っていく、両方アピールしていくことも重要だと思う。

■浜田商業高校校長

高校生学芸員の時にも申し上げたが、生徒が主体的に考えるためには担任が意味を理解すること、子どもにとって重要だと思って背中を押すということが手をあげるかに大きく左右すると思う。

高校生学芸員の場合、本校から7名が参加した。この参加に際しては、コンソーシアム事務局で教員に呼びかける動画作成という工夫をいただいたところである。

Y.A.C.の活動にもぜひ本校の生徒にも参加して欲しいので、同じく担任に呼びかける動画の作成をお願いしたい。

(事務局回答)

動画作成については、検討事項とさせていただく。

[閉会]

■会長

それでは、予定の時間となったので、以上をもって HAMADA 教育魅力化コンソーシアム令和 5 年度第 1 回役員会を終了する。活発なご意見をいただいたことをお礼申し上げます。

以上